

② 2025年10月(令和7年10月)



住吉大社境内「桂米朝記念碑」

◆◆◆ 住吉の笑芸人 第1回 ◆◆◆

住吉大社の前で客を呼び込む駕籠屋を題材にした「住吉駕籠」や「卯の日詣り」など、住吉界隈は数々の上方落語の舞台になりました。そんな住吉に上方落語四天王と呼ばれた二人の落語家が住んでいたのをご存じでしたか？

一人目は、三代目桂春団治かつらはるだんじです。羽織を真後ろに一瞬で落とす流麗な所作や絶妙の間など、華やかで洗練された芸風で、得意ネタは「野崎詣り」のざきまい。二人目は、六代目笑福亭松鶴しょうふくていしやかくです。春団治とは対照的に、ダミ声・豪快・力強さの中に繊細さを持ち合わせた芸風で、酔態と子どもの描写は他の追随を許しませんでした。得意ネタの「らくだ」を聞いた古今亭志ん朝ここんていしんちょう・立川談志たてかわだんしはその完成度の高さに口がきけなかったといえます。今年1月、住吉大社境内に顕彰記念碑が建てられた桂米朝かつらべいちよう(落語四天王の一人、人間国宝)も松鶴の存命中は敢えて「らくだ」を演じなかった程です。現在、松鶴の旧居を改築した寄席小屋「帝塚山 無学」しょうふくていつるべでは、弟子の笑福亭鶴瓶のトークショーが年に数回開催されています。

住吉区では、今も各所で落語会が開かれており、皆さまも一度足を運ばれてはいかがでしょうか。



「帝塚山 無学」(写真はいずれも著者撮影)

[執筆]

さむね やすひろ
NPO法人すみよし歴史案内人の会 實宗 康浩